

## 令和2年度第3回朝日町総合教育会議 会議録

令和3年2月24日（水曜日）

午前10時40分から午前11時50分

創遊館会議室

出席者 朝日町長 鈴木 浩幸  
朝日町教育委員会  
教育長 小林 道和  
委員 五十嵐義一  
委員 井上 幸弘  
委員 橋間 博美  
委員 海野 睦

職務のため出席した者の職氏名

教育文化課長 阿部 正文  
主幹 田中 靖士  
補佐兼学校教育係長 佐々木直美（書記）  
主査兼生涯学習係長 伊藤 雅樹

### 1. 開 会

課長の進行及び開会宣言

### 2. あいさつ

鈴木 浩幸 朝日町長

小林 道和 教育長

### 3. 協議事項

教育文化課長より会議の招集者である町長を議長とすることを確認し、了承を得る。

**議長（鈴木町長）** (1)令和2年度の朝日町の教育の推進（総括）について説明を求めた。

**課長及び主幹** 今年で3年目を迎えた第2次朝日町教育振興計画の目標指標に沿って、今年度の実績値等から推進状況について説明した。

**議長（鈴木町長）** (1)の協議内容について質疑、意見の有無を確認した。

**五十嵐委員** 令和2年度についてはコロナ禍の大変な状況の中、頑張っていると思う。

**橋間委員** コロナ禍において先生方も頑張っており対応している。西小の放課後サポーターをしているが児童は元気に活動しているので体力の面でも大丈夫と感じた。

海野委員 小中学生の児童生徒がいるが学校が楽しいと話している

田中主幹 中学生、小学生の読書の状況について保護者の立場でご意見をお願いします。

海野委員 中学生も創意工夫し小学生も朝読書の時間を宿題に充てる等している

井上委員 中学生は部活と勉強に時間をとられてなかなか読書の時間の確保は難しい  
小学生の時に宗生文庫を活用するなど大切な時間をつくるように底上げをしていくことも必要ではないか。小学生の時に体験したことは成長しても覚えている。人の役に立ちたいと思っているが実施できない児童生徒もいると思う。ちょっとした行動に移せれば自信を持つし参考としている数値を気にしなくともいいのではないか。そのうえでの「いのちの教育」となるのではないか。

議長（鈴木町長） それぞれに大事であると思うが、現状についてどのような状況か。

教育長 今年度は小中学校の長期休業というなかではあったが予定通り入学式を実施し、その後1か月程度臨時休業となった。それ以外は長期の臨時休業がなかったことは大変ありがたいことであった。それぞれの努力により主な行事、大きな行事をコロナウイルス感染症拡大防止の対策を行い実施できた。井上委員の意見のなかにもあったが人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合が高いことはいいことである。数値そのものではなく新学習指導要領の学びに向かう力として自己有用感、自己肯定感を持つことは非常にいい傾向である。

議長（鈴木町長） 人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合が小学校、中学校ともに100%であることから実行の機会があれば実施できるそういう人材になっていたただけのものとしてうれしい状況である。コロナ禍において様々な事情でできなかったものもあると思うが、できるようにするにはどうしたらよいかを第一に物事に当たっていただいた。町としてもそのように対応してきた。

議長（鈴木町長） (2)これからの朝日町の教育の推進（展望）について、説明を求めた。

主幹 今年度の総括と次年度への展望を3つに絞って別紙の資料のとおり説明

議長（鈴木町長） (2)の協議内容について質疑、意見の有無を確認した。

井上委員 今年度作成した保育園から中学校までの12年間のふるさと学習のカリキュラムのなかで保育園、小学校、中学校とそれぞれの年代で活動し、それぞれの段階で郷土についての探究心が深まる。

教育長 朝日町の保小中連携・一貫教育の2本柱は、「英語学習・国際理解教育」と「ふるさと学習・郷土教育」です。今年度作成のふるさと学習のカリキュラムをベースにして保育園から中学校までの12年間を学びの連続性を持って指導することは非常に大事なことです。探究型学習として朝日町では以前から自ら課題を設定し解決し共有している。学びの主体性が今後の学習意欲につながっていく。

コミュニティ・スクールの学校運営協議会と地域学校協働活動の両輪が円滑に回転するためには地域活動推進員と公民館長がひとつの核となる

**主幹**

今年の県教委主催の「探究コンテスト」で朝日中1年生が探究大賞を受賞した。町の広報紙に掲載されているとおり多数の地域の方が関わっている。この背景にはマンパワー、下支えがあるのが朝日町の誇りであると言える。総合的な学習の高さは大人の学びの高さに比例する。

**五十嵐委員**

いまの世代は英語学習、ICT、郷土学習等、幅広い学習。先生方がこれらに大変ななかで対応している。非常にすごいことをしているものであり教育委員会がバックアップしていかなければならない。

**海野委員**

GIGAスクールの推進により1人1台の端末が導入されるのでとても楽しみにしている。そのなかで情動的なところも大事だが五感を使った感性を育むことも大事。そこをコミュニティ・スクールで補っていく。米作り、もちつきなどを通して親も一緒に地域の先生から学ぶことは親も助かる

**橋間委員**

今年、大谷小学校に地域学校協働本部「大谷っ子サポーターズクラブ」が誕生した。人的、地域的な支えが必要。無理にならない程度に学校でも地域の先生を開拓していく。GIGAスクールについてはICT支援員の配置があれば先生方も安心して新しいことに取り組んでいけるのではないかと。

**五十嵐委員**

団塊の世代が持つ様々な能力1つ1つを宝物として活用することも大切。各地区の物知りたちの宝をおおいに活用する。

**井上委員**

ミライシードに予算が計上されているが、これらICTに使われるのではなく使っていく。新聞等に電磁波過敏症の掲載記事があり今後、視力等健康観察を定期的にして周りの大人がきちんと見ていく必要があるのではないかと。

**教育長**

まずは1年間実施したなかにおいて課題に対応する

**議長（鈴木町長）**

保小中連携一貫教育の他市町の状況はどうか

**主幹**

西川町では英語を小学校から中学校までの9年間を実施している。朝日町のような保小中連携一貫教育を実施しているところはないと思われます。

**議長（鈴木町長）**

その他の質疑、意見の有無を確認し、質疑及び意見並びにその他協議事項が無い旨を確認した。

#### 4. 閉 会

以上、協議し、午前11時50分に第3回朝日町総合教育会議の会議を閉じた。

町 長

教 育 長

調 製 職 員 佐々木 直美